



インパクトレポート
日本財団

2021年5月1日～2022年3月31日

一般社団法人
根浜
協働 MIND

イントロダクション

Atlantic Pacific Japan(以下APJ)のビジョンは、全ての人が安全な環境で海を楽しみ、海及び海洋生物の保護について学ぶことです。釜石は東日本大震災の被害を受け、それ以来復興に取り組んできましたが、ビーチ利用客は減少し、若者は海から離れた街中で過ごすようになりました。そして人々は釜石から、内陸の大きい街々に移っていきます。地域の若者の海との繋がりは小さくなり、地域の海に関連する産業や伝統が衰退してしまいます。

APJは、根浜MINDをはじめとする地域の団体と協力して、人々の釜石の海との繋がりを回復することを目指しています。1年間を通して、APJは、釜石、東京、そしてオンラインで、楽しく興味深い教育プログラムを実施してきました。プログラムを通して、釜石の沿岸地域の復興に貢献すると共に、人々の海に対する自信を育み、海洋保護に対する興味関心を喚起します。本事業の最終目標は、根浜海岸にシーセンターを設立し、通年のアクティビティを通して、海岸、海そして地域全体の復興を助けることです。



事業成果

日本財団の助成をいただき、今年度APJは大きなプログラムを実施しました。

パンデミックの影響を多く受け、多くのアクティビティをオンラインでの開催やリモート学習へ変更しなければなりませんでしたが、しかしそれでも尚、多くの若者に海で安全に過ごす方法と海を保護する方法について、意味のある学びを提供することができました。

APJは今年度のプログラムで...

- グローバルリーダーシッププログラム、サマーキャンプ、ファミリーデー、海のスカウトプログラム、プラスチック削減プログラムを通して、2,943名の若者と活動
- 釜石の生徒や地域の方々と協力して、廃プラスチックを新しいものに生まれ変わらせるための4つの機械を製造
- 毎年実施するオーシャンリバイバルコンペティションを開催し、最優秀賞として2つのプロジェクトを選出
- 日本中の教育機関で活用できるTeamieを使った教育プログラムを試験的に制作・実施
- プラスチック削減誓約についての周知活動をし、釜石市内の給水場所を知ることができる地図を作成
- 釜石高校の生徒とUWC Atlanticの生徒が情報やアイデアを共有できるプレシャスプラスチックプロジェクトのウェブサイトとブログを制作
- 釜石市内小中学校の2022年度学校カリキュラムに「APクラブ」プログラムの導入が決定
- 釜石高校のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の2022年度カリキュラムに「APクラブ」プログラムの導入が決定
- 根浜海岸と釜石市におけるAPJのプロジェクトの発展を望む地域の13団体から賛同書を受領
- 釜石市とシーセンター建設に向けた土地リースについての議論を発展
- シーセンター建設のための予算と事業計画を釜石市役所に提出



グローバルリーダーシッププログラム(GLP)

GLP: UMAP-COIL

2021年8月2日～9月20日

オンラインでの実施 (Zoom)

8月2日と9月13日にセッションを実施。7週間にわたり参加学生とメールでコンタクト

感想

沢山のことを考え直すことになったことがプログラムで一番印象に残っています。プログラムに参加する前は、特定の意見を持っていましたが、プログラムを通して、批判的に考え、自分の考え方を振り返る機会となりました。

自分のバックグラウンドが自分の考え方に偏りを与えることに気付けたことで、自分自身の考えを助けるだけでなく、グループ内が互いを理解し、より良い意思疎通をとることができました。

このプログラムでは、普段あまり考えないことについてもう一度考え直します。SDGsは真剣に取り組み、行動を起こさなければいけない問題であることを改めて気づかせてくれるプログラムです。

このプログラムは、人々に興味・関心を与えました。私は、問題自体よりも、人々の無知や無視を対処する方が難しいと思います。このプログラムは、私たちの未来、特に地球を救うための波及効果を与える素晴らしいプログラムです。人々の団結を無くして、目標を達成するのは不可能です。

GLPの一環として、APJは、関西大学主催の2021年UMAP-COILジョイントプログラムの参加学生と活動しました。このプログラムは、参加学生が地球市民として国際的な環境における現代の社会問題について国内外の視点から考える機会を提供します。参加学生は、プラスチック消費を削減する方法と、自然環境にあるプラスチックゴミ問題について地域社会に広く周知する方法について考えました。

79名の参加者

46大学から

12か国から

バングラディッシュ、ブルネイ、カナダ、チリ、中国、日本、マレーシア、メキシコ、フィリピン、タイ、アメリカ



から全員に

It was great to meet you all!

Anna Petlin

GLP: スプリングキャンプ

2022年3月23日～27日

オンラインで実施 (ZoomとTeamie)

Atlantic Pacific Japanのグローバルリーダーシッププログラム(以下GLP)は、チャレンジングでありながらも、参加者が、海やプラスチック問題を中心とする近年ますます深刻となっている問題について探求できる、やりがいのあるプログラムです。GLPは、日本の中高生が、リサーチ、発表、アイディエーションという英国の大学スタイルの構成で、イ

ンターナショナル生徒と交流することができるように設計されています。GLPは、海洋プラスチックの影響と、プラスチック消費を減らすためにできるアイデアを考えることに焦点を当て、日本の生徒と英国のインターナショナル生徒が共に考えを共有しながら英語と日本語で行われました。

26名の国内生徒

12名のインター
ナショナル生徒

このプログラムは、資料やコンテンツを参加者に提供し、参加者はそれにオンラインでアクセスすることができるオンラインポータルサイト、Teamieを用いて実施しました。このポータルを活用することで、全国から参加している参加者や英国からの参加生徒が協力してプログラムに取り組むことができました。このソフトウェアは、これから私たちが日本全国の教育機関と活動を行う際に、さらに効果的で効率的な方法で活動を行うことができるようになります。



感想

どうすればプラスチックの使用量や需要が減るのか想像するきっかけになったと思う。

自分で情報を集めて分析し、そこから原因とどうすれば改善されるかという、対策を考える上での過程は、今後研究活動する際や、何かプロジェクトを立ち上げる際に役立つと思う。

釜石の海岸はゴミが少ないので、気づきにくかったが、日本の中にも海洋ゴミ問題が深刻な地域があると気づいたので、さらにプラスチックを使わないように気をつけようと思った。

環境問題について考えながら、リサーチ能力、コミュニケーション能力、プレゼン能力など様々な能力が必要で、やってみることで少しその能力が上がっていいなと思いました。



my slide, i dont know if the slides is good

Group_14.pdf
6.60 MB

24/08/2021

Great slide
lets use your template as a head start for others
do share it here @ [user] thankssss!!
lighten the wording, and bold the ALREADY

What is ALREADY in place

WHAT CAN BE IMPROVED

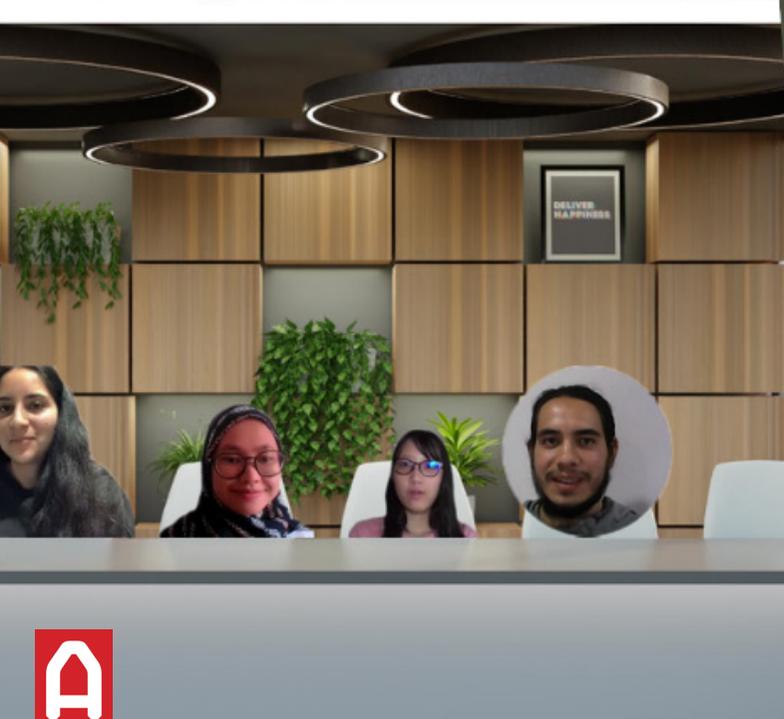
Make it consistent, if all capital letters or contain small letters, up to you
can insert our flag as well
<https://www.flaticon.com/search?word=malaysia&type=>

Sharing immerseu.class2class.com to meet.google.com

You're presenting to everyone | Presentation audio

Dashboard

- **Identify your problem:** How is your community using plastic? Is it a consumer or is it directly impacted by plastic pollution?
- **What is already in place?:** Are there already projects and programmes in place to promote the local problem with plastic and help reduce plastic consumption?
- **What can be improved?:** What can be improved or changed to existing project and programmes to have a better impact on changing peoples behaviours?
- **Innovative Action:** there are many different types of projects that are working on reducing plastic in our oceans - creating floating devises that collect plastic in the ocean, collecting plastics and turning into trainers or creating your own plastic recycling device and turning old plastic in to new things. Consider what innovative things you can do to reduce, reuse, recycle plastic in your area.
- **Communicate:** Do you think if people knew that recycling doesn't work and where it actually goes, or that we eat 50 credit cards of plastic a year, that they might change their behaviour to reduce their plastic consumption? I do. Consider what is the biggest cause of plastic pollution in your area and create a campaign to raise awareness about what this does to our environment and what they can do to stop it.
- **Present:** Create a powerpoint presentation on the process that you went through (the 5 areas above) and the final output of the project



SDG 3: Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages

Water Safety

POWERPOINT PRESENTATION

TALK ABOUT ALL OUR COUNTRIES:
CANADA
CHILE
JAPAN
MEXICO

Over the last 4 weeks in the UK, [unclear] drowned, which is exceptionally high. Most of these drownings have been in lakes, rivers, estuaries and other water. All of these deaths could have been avoided through heightened awareness and safety. As part of these safety measures, there will be inquests into the incidents to find out what happened and to prevent it from happening again. There will be more signs about the dangers of the water and barriers in place to prevent people from accessing the water. Having more lifeguards and more lifeguard posts should be considered, however often



GLP: オーシャンリバイバルコンペティション

2022年3月30日

オンラインで実施 (Zoom)

2つのカテゴリー: 17歳以下と18歳以上25歳以下

GLPの一環として、オーシャンリバイバルコンペティションを開催しました。コンペティションでは、25歳以下の若者が、海洋プラスチック汚染を解決する方法について考え、解決策を提案しました。実社会で実現可能かつ想像力溢れるアイデアを募集し、最終的に審査員団が、各カテゴリーから1チームずつ、最優秀賞を選出しました。私たちのオーシャンリバイバルコンペティションは、Atlantic Pacific が計画している、世界中の若者の力をあわせ、解決策を見つけるための挑戦となる数々のプロジェクトの第一歩となります。

審査員:

本多真紀 Vicky さん -日本財団

福田秀樹さん -東京大学大気海洋研究所准教授

尾形淳さん -株式会社Pluceeds

ルイスロビン敬さん -MyMizu共同創設者

Angela Ortiz Pettasさん -SDGsアクティベーション マーケティングストラテジスト

Guy Perryman -ラジオDJ

Tove Kinookaさん -グローバル・パースペクティヴス・ジャパン共同創設者、理事

221 名がコンペティション
ページを閲覧

50 名の応募者

6 名の受賞者



稲橋瑚春さん： カテゴリー①(17歳以下)最優秀賞

ライス部分を魚の形に成形し、その中に野菜の皮などをつめたカレーライスで、お腹の中にマイクロプラスチックが詰まった魚を表現することで、マイクロプラスチック問題について広めるというアイデアを提案しました。海洋プラスチック問題を説明するのに効果的である素晴らしいマーケティングキャンペーンであると判断され、最優秀賞に選ばれました。Xinyaoさん+Abobakarさんチーム：カテゴリー②(18歳以上25歳以下)最優秀賞

Xinyaoさん+Abobakarさんチーム： カテゴリー②(18歳以上25歳以下)最優秀賞

プレシャスプラスチックの方法を用いた廃プラスチックの回収、粉碎、再成形によって海での水泳者のための救命道具を創るというアイデアを提案しました。この道具は、廃プラスチックから簡単に作ることができるのに加え、役目を終えると再度リサイクルすることができます。そして、製造に使う型は、発展途上国に送ることで、そこで同じ救命道具を作れるようになります。

APJは、未来は地球の若い人たちの手にかかっていると信じています。これまでの人間の悪い習慣によってもたらされた結果を引き継ぎ、そのダメージを修復する最も効果的な解決策を見つけるのです。しかし、これまでの人間の無知さを埋め合わせるため、大人も解決に向けて取り組まなければなりません、そこで、Atlantic Pacificは、変化を生むためのツールとガイダンスを提供するべく、私たちの地球の未来を間違いなく占領するであろう課題・問題に立ち向かうためのプラットフォームとサポートを作ります。



サマーキャンプ

Atlantic Pacific Japanのサマーキャンプは地域と国内の子供たちを日本の沿岸部、特に釜石に引き戻すことを目的にしています。パンデミックの影響を受け、比較的高齢者の多い釜石での感染拡大を防ぐため、サマーキャンプは、東京で行った対面とオンラインのハイブリッド型へと変更しました。プログラムを通して、釜石を復興している町であり、沿岸部が生き残るためには、観光業と観光客が大切である点を取り上げました。プログラムでは、海での安全やプラスチックを中心とする海洋汚染についても注目し、参加した若者は日本のプラスチック依存削減のために人々の関心を高める方法について考えました。プログラムは日本語と英語で行いました。

サマーキャンプ1:2021年7月26日～29日

開催場所:文京学院大学女子高等学校 ハイフレックス型で実施(オンラインと対面) 参加者:中高校生46名

サマーキャンプ2:2021年8月5日～6日

オンラインでの実施 (Zoom) 参加者:中高校生10名

サマーキャンプ3:2021年8月16日～17日

オンラインでの実施 (Zoom) 参加者:中高校生10名

参加者: **66**名

感想

プラスチックに対する世界の取り組みや、自分たちがプラスチックを食べているという事実、動物の置かれている環境に思ったよりもはるかに衝撃を受けて、まだまだ勉強しないといけないと思った。

ライフジャケットの試着やロープワークなどを通して様々なことを行うことができた。

ロビンさんのお話では、水の怖さと共に身の守り方を改めて知ることができました。海や川、プールだけでなく身の回りの水にも怖さが隠れていることを家族のみんなに教えたいと思いました。





ファミリーデー

2021年7月22日、23日、25日

場所：岩手県釜石市根浜海岸

根浜MINDと協力して、根浜海岸で開催されたイベントに参加し、APJのプログラムについての紹介と、地域の子供たちや大人を対象とするWales Go (救命ボート)の乗船体験を実施しました。41名が参加し、Wales Goに乗船しました。子供たちは、Wales Goの乗組員と一緒に安全に体験をとても楽しんでいました。釜石の子供達にとって、救命ボートとAtlantic Pacific Japanに親しみをもつことができる良い機会になりました。7月25日には、根浜海岸で開催された釜石Meet-upに参加しました。

参加者：**41**名



海のスカウトプログラム

海のスカウトプログラムは、釜石の地域の子供達が、UWC Atlanticの生徒とのピアラーニングや国際交流をすることを目的としています。釜石教育委員会と協働で、ウェールズのUWC Atlantic Collegeの生徒37名が、釜石の子供たちに海での安全と海洋汚染について英語で30分の発表を行いました。そして、釜石の生徒は、UWC Atlanticの生徒による海洋プラスチック問題についての発表に対応する短い発表を英語で行いました。

7回のセッションへ合計37名のUWC Atlanticの生徒が参加

8月31日

釜石で実施(対面とオンライン):
参加者15名

10月27日

Zoomで実施:
唐丹中学校:参加者5名

9月27日

Zoomで実施:
唐丹中学校:参加者7名

2月15日

Zoomで実施:
甲子中学校:参加者45名

9月28日

Zoomで実施:
釜石東中学校:参加者20名

2月18日

Zoomで実施:
唐丹中学校:参加者10名

10月14日

Zoomで実施:
甲子中学校:参加者40名

参加者: **129**名

感想

海のプラスチックゴミを拾うことまでしか考えていなかったけれど、イギリスの高校生の話を聞いて、ゴミを再利用して新しいものを作ればゴミを減らすだけでなく、買う費用も抑えられることがわかった。

海と安全に付き合うためには、立ち止まって考える→一緒に行動する→水中ではまず浮かぶ→手を振って助けを求める、ということ意識すれば良いとわかった。





プラスチック削減プログラム

プログラムの一環としてAPJは、プログラム参加者全員にプラスチック消費の削減と海と海洋生物を守ることを呼びかけました。グローバルリーダーシッププログラム、サマーキャンプ、スプリングキャンプ、海のスカウトプログラムで行った全ての発表は、プラスチックが海、海洋生物、そして海に関わるもの全てに与える影響に焦点を当てました。それぞれのプログラムの最後には、参加者はプラスチック消費の削減を宣誓しました。

また、APJは、3月28日に、プラスチック削減プログラムに興味のある釜石の地域の方に説明かいを行いました。参加者の多くは、プレシャスプラスチックプロジェクトを含む未来のプロジェクトへの参加に興味を示していました。

11月20日、1月22日、2月26日、3月19日

月例全体セッション4回(釜石高校とUWC Atlantic 生徒が参加)

3月31日:プレシャスプラスチック機械の試運転

Zoom、Whatsapp、オンラインブログを使って実施
(<https://www.apj-preciousplastic-kamaishi.com/>)

参加者:UWC Atlanticから45名、釜石高校から20名

UWC Atlantic の生徒による8名の唐丹中学校の生徒へのプレゼンテーション

プレシャスプラスチックプロジェクト

2021年11月20日～2022年3月31日

プラスチック削減プログラムの一環として、釜石高校とUWC Atlantic とプレシャスプラスチックプログラムを実施しました。このプログラムで参加高校生はグループに分かれて、プラスチックを溶かし再成形する機械製造のアレンジ、プラスチック回収のための地域への呼びかけ、正しいプラスチックを集めて使用するためのプラスチックの性質などについての研究を行いました。また、zoomで月例セッションを開催し、生徒が情報交換や進捗報告を行いました。月例セッション以外では、Whatsappを活用して、情報交換をしました。生徒は、プラスチックを用いてプラスチックを溶かす実験をしたり、新しい製品の制作にも取り組みました。(安全のための監督あり)このプロジェクトの最後に参加生徒は、釜石の地域の方によって製造された3つの機械を試運転しました。そして、次年度からの生徒がプロジェクトについて理解し、引き継ぐためのブログも制作しました。



釜石高校からのフィードバック

プレシャスプラスチックプログラムについて、釜石高校の荻莊先生より、フィードバックをいただきました。

Precious Plasticの価値

受動的にしか学ぶことのなかった「環境問題」に対して、主体的に考えて、議論を重ねる中で、環境問題の深刻さを理解し、自分達が実際に社会に与えることのできるインパクトを実感し、自信に繋げることができるプロジェクトだと感じた。どこか他人事であった環境問題、大人が解決してくれることを期待してしまっていた環境問題を、生徒はこの半年間で、自分事として捉えるようになった。このプロジェクトはレベルが高く、難しいこともあるが、そこから得ることのできる学びや経験は、将来社会に変革をもたらす人材を生み出す鍵となると思う。

UWC・APと交流について

このプロジェクトでは西洋の学習スタイルがベースになっており、生徒にとっては新鮮な経験だった。生徒が沢山自分で考え、話し合うことが求められ、最初は自信がなく、自分の意見をミーティングで述べたり、質問をすることにさえ怯えていた生徒が多かったが、次第に順応していくにつれて、生徒も考えて意見を述べることに対する抵抗が少なくなってきた。また、このプロジェクトは、普段の教科の授業で学ぶことの動機づけにもなっている。

UWCの生徒と協働することも非常にいい影響を与えている。チャットや月例のミーティングで意見を交換してきた。お互いに同世代ということもあり、大人から貰うアドバイスとはまた違った刺さり方をして、いい刺激になっていた。また、両校のプロジェクトの間の友好的な競争が、本プロジェクトの質を向上させるきっかけになっている。



英語学習

英語学習は、多くの生徒がこのプロジェクトに参加する動機の一つである。APが用意した通訳のシステムのおかげで、生徒がプロジェクトの内容をしっかりと理解し、意見を確実に伝える上で安心感を感じることができている。また、通訳がいるからこそ、英語で意見を伝えることにチャレンジすることもできると思うので、このシステムはとてもいいバランスを保っている。今のところは、生徒はまだ、通訳に頼っている状態であるが、この英語主軸となった環境と英語で意見を述べる機会は、生徒達の英語学習の大きな意味付けや動機づけとなっている。生徒達が英語の力を伸ばし、通訳なしで意見を交わしている所を見れることを期待している。生徒もそれを目標に努力を重ねている。

生徒の成長

このプロジェクトはまだ始まったばかりではあるが、生徒の大きな成長があった。まず、生徒がこのプロジェクトに当事者意識を持つようになった。多くの学校での学習やプロジェクトでは、教師の助け、大人の助けが多く、結局生徒は指示を待ち、それを遂行したり、大人の助けを借りて始めてプロジェクトを達成することに留まってしまう結果、生徒は結局指示を待つことに終始することが多い。しかし、本プロジェクトは生徒が自分で考えて、行動することが求められており、最初のうちは指示を待つような姿が散見されたが、次第に、自分で考えて行動しなけ

ればならないこと、Precious Plasticが世界を本気で良くするためのプロジェクトであることを理解し始め、自分たちで率先して行動を起こすようになった。

また、チェンジメーカーの考え方を学んだ。自分たちでプラスチックをリサイクルすることができ、地域社会も巻き込むことができると学び、経験したことで、生徒は今、本気でプラスチック問題を解決するために大きなスケールで考え始めた。

4月からの展望

4月からは、何名かの生徒も参加し、正式に釜石高校のカリキュラム内の探究活動として研究活動を実施できるようになる。機械も完成し、実際に環境問題を解決するアクションを起こせるようになる。まず、年度始めにこれから1年間のゴールを決め、そこから1年のタスクスケジュールを決めていく。また、プラスチックの仕組みや性質についても本校の理科教員と協力して、本格的な研究活動を行っていく。これから多くの挑戦が待っているが、テストランで分かった通り、生徒はこれらの挑戦を乗り越えて成長し、UWCの生徒との協働も大きな助けとなる。また、今年の夏から秋にかけて、新1年生がこのプロジェクトに参加する予定だ。

